

第 17 回廿日市市産業振興審議会 議事録

日 時：令和 7 年 3 月 28 日（金）

10：00～12：00

場 所：廿日市市役所 3 階 政策審議室

出席者

（委員）

- ・ 県立広島大学 地域基盤研究機構長 地域連携センター長 上水流委員（会長）
- ・ 広島修道大学商学部 教授 富川委員（副会長）
- ・ 広島工業大学 副学長 林委員
- ・ 廿日市商工会議所 会頭 澁谷委員
- ・ 佐伯商工会 会長 夏原委員
- ・ 宮島町商工会 会長 松本委員
- ・ 一般社団法人宮島観光協会 会長 中村委員
- ・ 廿日市市金融懇談会 幹事支店長 末次委員
- ・ 廿日市公共職業安定所 所長 地主委員
- ・ 廿日市市 副市長 村上委員

※大野町商工会 会長 山田委員、ひろしま農業協同組合 佐伯中央地域 統括長 野村委員、一般社団法人はつかいち観光協会 代表理事長 塩田委員、中国経済産業局 総務企画部 企画調査課長 腰本委員、広島県商工労働局新産業創出担当部長 空田委員の 5 名は欠席

（事務局）

- ・ 産業部長
- ・ 産業部 産業振興課長
- ・ 産業部 農林水産課長
- ・ 産業部 観光課長
- ・ 産業部 産業振興課 産業企画係 係長
- ・ 産業部 産業振興課 産業企画係 主任
- ・ 産業部 産業振興課 産業企画係 主任

配付資料①令和 6 年度廿日市市産業振興ビジョン（後期版）進捗管理シート

②廿日市市産業振興ビジョン成果指標（後期期間）／重要業績評価（KPI）一覧表

③令和 7 年度 廿日市市産業審議会について

④廿日市市産業振興ビジョン後期計画 検証シート

⑤市内事業者アンケート調査集計結果（速報版）

⑥廿日市市の産業基礎データ

（情報提供資料）廿日市市男性育児休業取得促進奨励金、男性の子の看護等休暇制度導入奨励金の創設概要説明資料

（情報提供資料）広島駅ミナモア「DoTS」チラシ

1 開会

開会あいさつ、委員紹介（事務局：産業振興課長）

（省略）

会長挨拶（上水流会長）

- ・皆さま、おはようございます。年度末のお忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。本日は、令和 6 年度の産業振興ビジョンの実施状況について確認するとともに、次期産業振興ビジョンを作っていくという最初の会議になります。重要なスタートになると思っておりますので、委員の皆さまのご意見を率直に出していただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

2 議題

事務局：産業振興課長

- ・それではこれより議題に入ります。ここからの議事進行は、規則第 3 条第 2 項の規定により会長が行うこととなっておりますので、上水流会長にお願いいたします。

（1）廿日市市産業振興ビジョン（後期期間）の進捗状況について

上水流会長

- ・令和 6 年度産業振興ビジョン関連事業の実施状況及び成果についてということで、事務局より報告いただきます。戦略 1 から戦略 7 まで、戦略ごとに議論をしまいたしますが、前回の審議会と重なる部分がありますので、前回の報告から変更、追加、実績があった項目のみに絞って事務局より説明をしていただきます。
- ・まず事務局から説明いただいて、委員の皆様から補足等ご意見を頂戴できればと思います。それでは事務局の方、説明をお願いいたします。

戦略1 地域経済を支える・成長させる人材の育成、確保

事務局：産業振興課 産業企画係長より資料説明（記録省略）

【戦略1－戦術1：産業人材の育成、確保、誘致】

【戦略1－戦術2：多様な働き方の実現と就職支援の強化】

【戦略1－戦術3：創業の支援】

【戦略1－戦術4：事業承継、第2創業の支援】

【戦略1－戦術5：商店街等のリーダーの育成と多様なプレーヤーの呼び込み】

上水流会長

- ・戦略1に関するご説明ありがとうございました。様々な団体の取組の説明もございましたが、補足説明やご意見がある委員の方は、ご発言をお願いいたします。

林委員

- ・1ページの吉和地域での大学生との意見交換会について継続的に実施するか検討が必要、というところですが、もし現時点で課題感のようなものが整理されているのであれば、教えていただけないでしょうか。

事務局：産業振興課 産業企画係長

- ・今年度は事業者と大学生をマッチングしてくださる方の無償、ご厚意でやっていった取組ですけれども、今後継続していくには、やはり費用の発生の面もありますし、本年度やったことの成果をどうつなげていくかというビジョンがまだあまり見えていない部分もあったりするので、どう継続していくか検討していくと聞いております。

上水流会長

- ・佐伯商工会の方から、この点で何か補足するようなことがございましたらお願いいたします。

夏原委員

- ・継続してやるには、動ける人を確保するのと、どうしてもいろんな事業者が個々のやり方で仕事をしながらの取組になるので、スケジュール調整をしっかりと、役員・職員が内容もしっかり濃くするように、今年はそういう目標で取り組むように考えています。

上水流会長

- ・分かりました。ありがとうございました。

渋谷委員

- ・3ページの創業支援ですけれど、3月8日にビジネスプランコンテストを行い、市長にも出席していただきました。若い方からお年寄りの方まで大変多くの方がビジネス

プランを出され、大変活況でした。皆さんそういう意識をお持ちになられているんだな、というのを私も出席させていただいて感じました。これは本当にいいやり方だなと思い、引き続きやればよいと思います。

上水流会長

- ・ご意見ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

富川委員

- ・2 ページのはつかいち就職ガイダンスは、市全体でやっていたものなのに、宮島観光関連企業がほとんどを占めていたということなのでしょうか。

事務局：産業振興課 産業企画係長

- ・宮島観光関連企業の人材不足の傾向が顕著に出ているということもあり、まずはそこから取り組もうということで、昨年度と今年度、2 年続けて観光を主題としてやったところでございます。2 年やりましたので、来年度は違うターゲットにして開催しようということで今計画をしています。

上水流会長

- ・よろしいでしょうか。他にいかがでしょうか。

中村委員

- ・木材港の経営者の方が、ずっと宮島工業高校から従業員を採用していたが、今年は途切れたとおっしゃっていた。宮島工業校で宮島の宮大工の方に講演をしていただいたことですが、宮島の古い建築に興味を持っていただくことも、とても重要なことだと思いますけれど、廿日市市内のものづくりについて、市内の高校などでチャンスがあれば講演のようなもので知っていただいて、廿日市市の生徒が地元に残っていただけるような工夫をしていただければいいのではないかと思います。

事務局：産業振興課 産業企画係長

- ・おっしゃったことは、まさしく広島県の全体としての大きな課題になっていまして、いかに卒業された方が広島に戻ってきていただけるかという取組を、これから注力していけないといけないと考えているところです。来年度にはなりますが、会議所・各商工会の皆様と、学生に向けた廿日市市内の企業の PR をどういうふうにしていくかを話し合って、実行に移していきたいと考えていますので、ご協力をいただければ、と思います。

上水流会長

- ・はい、ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

松本委員

- ・先ほどのはつかいち就職ガイダンスに宮島観光関連企業 13 社というのは、ホテル関係の従業員不足ということが大きいので、宮島のホテルが出られて働き手を採用していくという形がとられています。

富川委員

- ・ほとんど宮島島内が中心で、それ以外の地域での人手不足はそれほどでもない状況なのですか。

松本委員

- ・人手不足は、他でもあるのですが、宮島が深刻化しているということです。

上水流会長

- ・他に、いかがでしょうか。それでは続いて、戦略 2 をよろしくお願いします。

戦略 2 市内を縦断する食産業「フードバレーはつかいち」の創出

事務局：産業振興課 産業企画係長より資料説明（記録省略）

【戦略 2－戦術 6：農業の多様な担い手の育成と経営力の強化】

【戦略 2－戦術 7：水産業の 6 次産業化の推進と環境の保全】

【戦略 2－戦術 8：食の現場ツーリズムの立ち上げ】

【戦略 2－戦術 9：地元農産物と観光等をつなぐ地産地消の仕組み】

上水流会長

- ・戦略 2 に関しまして、委員の皆様から補足の説明やご意見・質問がございましたらお願いいたします。

渋谷会長

- ・6 ページの水産業の環境の保全というところで、牡蠣が問題になっているということ。大野のあさはブランド化されているけれども、今年は全滅に近いという話を聞いていて、私もまだ 1 回しか食べていないのです。結局、海の状況が悪くなっているから、魚にも牡蠣にも貝にも影響を及ぼしているのではないかな。抜本的なことを考えないと、結局、場あたりの手の打ち方しかできないのではないかなという気がしています。

事務局：農林水産課長

- ・確かに大野のあさは、去年の 8 月の暑い時季を過ぎた 9 月以降、急にへい死が増えたという情報は受けております。実は影響を受けたのは大野が非常に多く、大竹と広島市佐伯区はそこまで影響を受けていなかったという情報もありますので、状況をよく見ないといけないかなと思っています。県と連携を図りながら、へい死が増えた原因の調査から入り、結果を待ちたいと考えております。

上水流会長

- ・6 ページの市の駐車場内において雑草対策試験を実施とありますが、結果的にはどうだったのでしょうか。

事務局：農林水産課長

- ・3月17日、18日にかけて表土を10センチ程度剥ぎ取り、圧縮してかなり粒度の高い廃竹のチップ化をしたものを入れて雑草対策を行うということで、まだ実施したばかりです。1年かけて経過観察をして、その結果に基づいて活用を考えていこうと思っております。

上水流会長

- ・それでは戦略2は以上にして、戦略3について説明をお願いいたします。

戦略3 森林の育成から木の消費までを結ぶ「木のたびネットワーク」の形成

事務局：産業振興課 産業企画係長より資料説明（記録省略）

【戦略3－戦術10：木のまちはつかいちを牽引する企業・挑戦するグループ等の集中支援】

【戦略3－戦術11：産官連携による市食材活用の仕組みの構築、事業化】

上水流会長

- ・戦略3に関しまして、委員の皆様から補足の説明やご意見、またご質問があれば、よろしくをお願いいたします。

富川委員

- ・9 ページの2024年度の課題で、宮島歴史民俗資料館と新ミュージアムに関して、完成が令和10年度から令和11年度に変わった以外に課題がありますか。

事務局：産業振興課長

- ・予定が遅れているのは、設計等の段階の話で、若干少し後ろ倒しになってきたという事情がございます。今回、新たにミュージアムを作るということで、今までの歴史民俗資料館と伝統産業会館を合築するという形で、どういった建物にしていくかというところをしっかり検討しているところでございます。要は人がしっかり呼べる施設をどのように作っていけるか、というところが最大の課題というところでございます。

事務局：産業部長

- ・ミュージアムの整備手法として、従来通り公共が発注して建てるのではなくて、民間活力を活用しようということで、PPPやPFI、あるいはDBOなどのメリット・デメリットを検証し、サウンディングなども交えながら、最適な整備手法の検討に時間を要しているというところがあります。ある程度の目処が立てば公募していき、最短で

令和 11 年度ということで検討を進めています。

上水流会長

- ・戦略 3 に関しまして、ほかにいかがでしょうか。

渋谷会長

- ・廿日市は「木材のまち」で有名だったと記憶していますが、木材が昔のようにたくさん廿日市にきて、加工して製品化されているように見えない。昔は浅原の方の人口がとても多かったのに、今はずいぶん減少しているということも、結局、林業に関係する人が減っているのではないかというのが私の推測です。森林の育成と書いてありますが、もっと山を大切にすることが海にも影響するのではないかという気がしています。

事務局：農林水産課長

- ・林業では、輸入自由化で海外に頼めばきちんと製品が届くという時代になってしまったので、国産材を使うということが一旦廃れてしまったということだったのですが、世界の情勢も変わってきた中で、やはり森林の持つ多面的な機能を十分に発揮させる、二酸化ガスの吸収を促進していくためには、間伐などをしていかなければならないということが国としても掲げられております。そういったことで国産材に回帰しようという取組が非常に盛んに行われているところです。
- ・木材港の事業者のほとんどが輸入材に頼っている部分が非常に多い状況ですが、いくら社会情勢が変わってきて、紛争や戦争が起きて、材をなかなか調達できない、もしくは輸入のほうがかつたという時代が変わってきている状況です。国産材に回帰するということで、基盤の整備がまた再度進められている状況もあり、市内でも国産材を非常に多く取り扱っている中本造林では、製材業の機能を強化して、特に市産材の原木を製材して、板とか柱とかの製品を市内に供給していきたいということです。今後、市産材の活用として原木が流れてくるような状況になってきますので、少しずつではあると思いますが使用頻度、もしくは市産材を手に入る機会というのは増えてくるのではないかと考えております。

上水流会長

- ・産業の流れ、あり方ということでご説明いただいたと同時に、市民の方に知っていただくということで、今回の説明の中で広島駅「ミナモア」の中で「木のまち はつかいち」ということを PR したり、明日も類似したイベント（木のたびツアー）が実施されたりということがあり、見せ方も含めて「木のまち はつかいち」というところが、市民も含めて認識が深まればというご意見と理解しましたので、引き続きよろしく願いいたします。
- ・それでは続きまして、戦略 4 に関して、事務局の説明をお願いいたします。

戦略 4 観光まちづくりのマーケティング/マネジメント機能の強化

事務局：産業振興課 産業企画係長より資料説明（記録省略）

【戦略 4－戦術 12：レスポンスブルツーリズムの推進】

【戦略 4－戦術 13：ストレスフリーな観光地づくり】

【戦略 4－戦術 14：マイクロツーリズムの普及・定着／「過疎」コンテンツの充実】

【戦略 4－戦術 15：インバウンド観光の復活、市内周遊促進】

【戦略 4－戦術 16：「新たなにぎわい×地元事業者」による稼ぐ仕組み】

上水流会長

- ・それでは戦略 4 に関しまして、委員の皆様からご意見等を頂戴したいと思いますが、いかがでしょうか。

富川委員

- ・まず 1 つ目が、10 ページのレスポンスブルツーリズムについてです。観光マナーの啓発で、イベントが中心になっているようですが、イベントでは参加者にしか周知できないというところがありますので、もう少し抜本的に考えることはできないかと思っています。個人的に意見を言っているのかわからないですが、例えばオーバーツーリズムもあるので必ずガイドをつけるような海外の事例もあります。ガイドをつけるとか、最初に島に入ったときにマナーの説明を受けるとか、もう少し広げないとイベントだけでは参加者に限られてしまうのではないかとこのところを感じました。
- ・エコツアーというのは、基本的には屋久島や西表島の大自然など、自然を守ることが第一義にあると思うので、12 ページの SDGs のプログラムに絡んできます。干潟の観察会こそエコツアーに入ると思うので、もう少し SDGs 系を入れたエコツアーが推進されるべきではないかと思っていますので、見直しをされたらいいと思いました。
- ・もう一つは、13 ページのインバウンドです。インバウンドに力を入れているというのは分かるのですが、地政学的にも今までのようにインバウンドが急増するとは少し考えにくいという点もあります。一方で、日本人に対する誘致策、東京とか関西とか、大きなマーケットに目を向けていないところに疑問があります。広島に来る観光客として外国人が目立っていますが、日帰りが多くてほとんど消費額も上がっていないと思います。それに対して、8 割程度を占めているはずの日本人は、休暇制度が整ってきているので今後は増えてくるのではないかとこの見通しと、今は円安なので外国に行くアウトバンドよりも国内需要が高まっている状況がありまして、もう少し日本人に目を向けた政策が必要ではないかと思っています。

観光課長

- ・まず 1 点目です。今年度、マナー啓発として実施したことは大きく 3 つあり、1 つは宮島への入り口であるフェリーターミナルにマナー啓発のポスターなど、周知したいことを大きく表示しました。合わせて動画を作成して、フェリーターミナルなどで上映しています。ただ、それでは気づかない方がいらっしゃるということが大きな課題でして、どちらかというとイベントのような形にはなりますが、京都の啓発事例を参考にして、具体的に興味を示していただくひとつのきっかけとして実施したのが旅先クイズです。特に、宮島の中で大きな問題になっているゴミ箱とトイレの少なさなどについて、旅先クイズに興味を持たれた若者などに正しい情報を広めていきたいとい

うのがねらいです。特にイベント中心ということではなく、いろいろな手法を使ってPRしていきたいと思っております。

- ・2点目のエコツアーについてです。ここ数年、コロナの関係でコンテンツ作りが止まっていたというのが実情です。今、インバウンドも戻ってきてまして、宮島の文化遺産であると同時に全島がバッファゾーンにもなっていますので、SDGsやエコツアーの造成が急務であるというところから始まり、やはり増やしていかななくてはならないというのが我々観光課の考えであり、どういったことができるのか引き続き検討してまいりたいと思います。
- ・3点目の日本人観光客に対する取組が必要ではないかということですが、主に日本人対象として力を入れているのは教育旅行で、誘致活動とかPR活動をしてきております。ご指摘のとおり、インバウンドがなくなった時にどうなるのかという危機感は、宿泊事業者と話をしていると痛烈に感じているところでもあります。少子高齢化とはいえ国内観光客が9割を占めていますので、今年はまず大阪・関西万博でのPRを行うことと、来年度が世界文化遺産登録30周年ということもございますので、国内に向けて発信をしていって、旅行者の獲得に努めていきたいと思っています。

上水流会長

- ・ありがとうございます。中村委員、お願いします。

中村委員

- ・インバウンドがあまり伸びないのではないかと、私も分かりませんが、国の目標としては2030年までに6,000万人となっている。去年は3,900万人ぐらいで、実際の問題として既に羽田、成田、関空がほぼ一杯になっているらしいです。残り2,100万人分をいかに確保するかというところで、地方空港にある意味のチャンスが出てきたりする可能性があるのではないかなと思います。旅館事業者などでは、直行便ができるとアジアなどの国の方が宿泊していただけるという話もありました。私の仕事は饅頭屋ですので、外国の方にはあまり買っていただけないので、日本人の方に来ていただきたいという思いはあるのですが、やはり外国人の方にどのようにお金を落としていただくか、経済効果も並行して考えていったほうがいいのではないかと、また今実証実験していただいている空港と宮島口を結ぶシャトルバスなどのサービスも、宮島口をきれいに整備していただいている最中なので、機能を上手に活かせるようにしていただければいいかな、という思いがあります。
- ・もう一つは、あくまでも新年度からということで、空論に終わらせてはいけないと思っているのですが、宮島観光協会を中心にして地元の各種業種別団体、商店街やコミュニティ、市にもご協力いただきながら、宮島でお客様に快適に過ごしていただいて、またリピートをしていただくということを目的に、先ほどのゴミの問題にも取り組んでいきたいと思っています。今、食べ歩きがすごく多いので、できるだけ販売した店でごみを回収していただく、あるいは食の安全安心、安全管理をしっかり徹底していただく、お客様が増えますとどうしても接客が雑になったりしますので、ホスピタリティサービスの徹底。また商店街では狭いところもあるので、テイクアウトのお店などでお客さまが並ぶ列をできるだけ敷地内に誘導して、商店街の混在回避をしましょうというようなことを、新年度の総会などで観光協会や商工会を中心として皆さんに呼びかけることによって、少しずつ啓発をして、場合によっては研修会や講習会にも参加していただいて、意識を向上していきましょと宮島町商工会長にもお願いをしております。

松本委員

- ・観光協会と商工会は、宮島では一つの組織みたいなものなので、お客様を迎えるにあたっては、お互いに協力し合って満足していただけるようにしていきたい、と私どもは考えております。今、いろいろな店舗が入ってきておりますので、少し煩雑にはなってきています。ルールを作ってお客様に失礼のないようにしたいのが一番の目的です。また、衛生面でもいろいろな問題が出ていますので、問題やクレームが出ないようなルールを作っていかなければいけないと思っています。

上水流会長

- ・はい、分かりました。ありがとうございます。
- ・1点だけ、観光のことで気になっているのが、例えば高齢化していった足が不自由な方とか、障がいのある方の観光についてどうなるのか、ということについて疑問に思っているところです。宮島は非常に混んでいることもあって、歩くのも大変ということがありますが、何か今後の対策はあるのでしょうか。

松本委員

- ・今商工会としては、「WHILL（ウィル）」（次世代型電動車椅子）の導入なども考えています。狭い商店街を通れるかどうかという問題もあり、平和公園でトヨタが実証実験をすることなので、良いようなら宮島でも実証実験をしてはどうかという話が出てはいるところです。商店街を通れるかどうか、厳島神社への経路や段差など、いろいろな問題が出てきていますので、もう少し時間がかかりそうではありますが、検討しております。

上水流会長

- ・宮島の観光の中で出てきた問題として、これから多分そういう方が増えてくるかなと思っていますので、よろしくお願いします。
- ・それでは続きまして、戦略5に関しまして事務局より説明をお願いいたします。

戦略5 企業の生産性の向上や新事業の創出支援

事務局：産業振興課 産業企画係長より資料説明（記録省略）

【戦略5－戦術17：大学の知財や金融機関ネットワーク、デジタル技術をつなぐ場づくり】

【戦略5－戦術18：EC市場・首都圏・海外の販路拡大】

【戦略5－戦術19：ウィズ・アフターコロナの需要を捉えた事業再構築・新商品・サービスの開発支援、事業継続力の強化】

上水流会長

- ・ありがとうございます。それでは戦略5に関して、委員の皆様から補足の説明等を含めまして、ご意見がありましたら、よろしくお願いいたします。

林委員

- ・戦術 17 の大学の知財等をつなぐ場づくりに関して、まだ具体的な取組を検討するということが不足しているという課題感もありますので、次のステップのところでどうことができるかというところはぜひ議論させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。
- ・併せて大学も、ものづくり工房を 4 月から拡充させまして、将来的に地域の方々とも交流を図れる場として使っていけるようにというビジョンを描いております。先ほども木を使った取組の話がありましたけれど、地域の方々、例えば小中学生も含めて盛り上げるような会場として使えたり、大学の教員も地域の魅力をどうやって発信していくかということも考えたりしながら取り組んでいきたいと思っております。将来そのあたりも相談させていただけたらと思っておりますので、よろしくお願いします。

上水流会長

- ・他にいかがでしょうか。それでは、戦略 5 に関しましては、以上とさせていただきます。続きまして、戦略 6 について、事務局で説明をお願いいたします。

戦略 6 新たな都市活力の創出

事務局：産業振興課 産業企画係長より資料説明(記録省略)

【戦略 6－戦術 20：市内企業の留置・市外企業の誘致】

上水流会長

- ・ありがとうございました。戦略 6 につきまして、委員の皆様から何かございますでしょうか。戦略 6 は、以上にいたしまして、最後に、戦略 7 につきまして、事務局で説明をお願いします。

戦略 7 「オールはつかいち」の産業支援

事務局：産業振興課 産業企画係長より資料説明（記録省略）

【戦略 7－戦術 21：廿日市版 DMO・DMC の検討】

【戦略 7－戦術 22：創業支援プラットフォーム機能の発揮】

上水流会長

- ・戦略 7 に関しまして、委員の皆様から何かございますでしょうか。
- ・DMO についてはどういう状況にあるのでしょうか。

観光課長

- ・今、令和 7 年度中の設立にむけて動いているところです。DMO という制度自体が国の方で見直しを図られておりまして、この秋に実際の具体的な方向が示されることに

なっています。ですから、DMO の登録をすぐにするのではなく、まず一般社団法人化をして動ける体制づくりをしていきたいと思っております。来年度予算に計上しているのは、市役所本庁の 1 階のコンビニエンスストア跡を改修して、事務所として活用したいと思っていますところです。

上水流会長

- ・わかりました。ありがとうございます。
- ・他にいかがでしょうか。それでは戦略 7 につきましては、以上といたします。議題 1 は、以上となります。ありがとうございました。

(2) 次期産業振興ビジョンについて

上水流会長

- ・続きまして議題 2 の次期産業振興ビジョンについて、事務局より説明をお願いいたします。

資料③令和 7 年度 廿日市市産業審議会について

資料④廿日市市産業振興ビジョン後期計画 検証シート

事務局：産業振興課 産業企画係長より資料説明（記録省略）

- ・この資料の説明は、以上となります。
- ・続いて、先日実施したアンケートの集計結果の速報版について、ランドブレイン株式会社さんからご説明させていただきます。

資料⑤市内事業者アンケート調査集計結果（速報版）

事務局：ランドブレイン株式会社より資料説明

- ・それでは市内事業者アンケートの集計結果について説明させていただきます。配付資料の 2 ページ目をご覧ください。
- ・本アンケートは、次期産業ビジョンの策定に向けた基礎資料としまして、市内事業者の現況、市に対する要望等の把握目的として実施したものととなります。今年 1 月中旬に発送しまして、2 月末にかけて回収集計を行いました。今回、速報としてのご報告になりますので、特性別の分析には至っておりませんが、ご容赦いただければと思います。
- ・対象は市内事業者のうち、有意・無作為抽出の組み合わせにより 1,223 社を選定しまして、紙・WEB 双方で回答受付を行いました。その結果、回答数 332 通、回答率 27.5%となりますので、回答内容の信頼度における一般的な水準はクリアしております。なお、回答事業者の 3 分の 1 がサービス事業者に当たりますので、各設問においては、同業者の意向がやや強く出ている感がありますのでご承知おきいただければと思います。
- ・3 ページ目をご覧ください。市内事業者の経営状況と事業方針につきまして、売上高、

営業利益、設備投資額、事業員数の4区分について、直近3年間の動きと今後3年間の見通しをうかがったものになります。直近と今後を比較いたしますと、まず売上高については、増加減少の割合が低下し横ばいが6割近くに増加するなど、安定的、保守的な事業経営を実行、予測している事業者が多く見られます。人口減少や労働力不足、事業環境の変化等への対応、またコロナ回復期を終えて正常化に向かう中で成長率が鈍化する傾向等が背景にあるものと推測されます。また、営業利益におきましても共通の傾向が確認できますけれども、今後に関して減少を予測する事業者が3割となっております。目下、原材料価格ですとか、エネルギーコストの高騰、また人件費の上昇等による利益の圧迫、価格転換の難しさなどがうかがえるところです。

- ・続きまして4ページ目の左側です。事業者が考える自社の現在の強みと今後強化したい要素についてうかがったものです。営業・販売力、経営・管理能力、従業員の質の高さ、財務基盤、製品・サービスの独自性・ブランド力などの基礎的な要素が上位を占めております。先ほど申し上げた経済環境の不確実性、事業環境の変化を背景にしまして、足元の経営基盤の強化の方が急務だと考えている事業者の多さがうかがえるところです。
- ・続きまして5ページ目の右側、経営上の不安要素になります。原材料価格の上昇が突出しておりまして、事業者の多くが原価の増加による利益率の圧迫、並びに価格転換の難しさを深刻な問題と捉えていることがわかります。同様に人件費の増加も高くなっておりまして、この2つが収益構造の圧力要因として認識されているように見受けられます。一方で、従業員の高齢化ですとか、人手不足、人材不足なども上位を占めておりますので、労働力の量的・質的な確保も困難な状況がうかがえます。
- ・続きまして6ページ目の立地環境上の課題になります。仕入元、販売先、外注先の減少などが上位となっております。市内及び周辺における市場の縮小あるいは産業集積の希薄化を懸念する事業者が多く見られます。市産業全体のエコシステムの弱体化あるいは地域経済の活躍低下を示唆するという点で、注視すべき傾向かと思えます。
- ・続きまして9ページ目になります。ご議論の中でも人材に関する話が出ておりますが、今回のアンケートには慢性的な人材不足の現状を踏まえまして、人材確保に関する質問を多めに設けております。まず、左のグラフで人材確保の状況は、不足しているという事業者に具体的な人数を質問したところ2人不足しているという事業者が53件と最も多くなっております。続いて1人不足しているというのが27件続いております。たった1人でも容易に確保できないという状況に、人材不足の深刻さが表われているかと思えます。続きまして右のグラフが不足している職種になります。営業・販売職が3割ということで突出しています。回答事業者におけるサービス企業の多さが反映されているとも言えますけれども、市の主要産業でありますので、ここで人材不足が続けば、売上確保・拡大の制約要因となりかねないという問題があります。また、製造職ですとかドライバー・倉庫作業員、建設工事職など、現場で必要になる職種も不足感が顕著に出ています。
- ・続きまして10ページ目の左側、人材不足の要因です。応募者の不足が6割超と突出しておりまして労働市場における需給バランスが崩れていることを増えるということを示唆しています。これは廿日市市に限らず、全国共通の構造的な要因ですので、短期的な解決というのはなかなか難しいものではないかと思えます。そして右側は採用したい人材層になります。同業の実務経験者が過半数を占めておりまして、即戦力志向が顕著に表れています。人材育成に関して、時間的、資金的な余裕がなく、短期的な人材ニーズの充足を優先せざるを得ない状況がうかがえます。また第二新卒・若年層、新規学卒者も高く出ておりまして、若年層の新卒ニーズを反映しています。一

方で、主婦層ですとか外国人労働者、高齢者等のニーズは相対的に低くなっておりまして、多様な人材の活用に対する意識というのは、まだ十分に浸透していない様子もございます。

- ・続きまして 11 ページ目の左、主な求人方法・採用ルールになります。本日地主様にご出席いただいておりますけれども、ハローワークの回答率が 6 割強で突出しております。プラットフォーム構築の成果と言えるかもしれませんが、公的機関としての認知度や信頼性が当然あるとして、無料で利用可能な点も大きいのではないかと推察しております。あとは、家族・友人・知人の紹介というのも 4 割強と高くなっておりまして、実効性の高い採用ルールとして重視されているものと思われます。学校からの紹介というのは 10%弱に止まっておりまして、なかなか高校・大学との関係性を構築できている事業者というのは限定的な状況にあります。特に新卒採用を重視する事業者は連携の確立が課題となっております。また県・市主催の合同企業説明会・就職フェアの利用率が低くなっておりまして、行政主催のマッチングイベントがあまり活用されていないという状況があります。開催頻度ですとか、規模、対象者等、事業者のニーズに合わせたものに改善を図る必要があるのではないかと思います。
- ・大きく飛びまして 19 ページについてです。ここから議論いただいております現行の産業振興ビジョンの戦略に対する満足度・重要度をうかがったものになります。まず各戦略の満足度になりますけれども、すべてにおいて「分からない」が 50~60%前後を占めております。事前に予想された結果ではありましたが、市の産業振興の方向性に対する認知度・関心度という点ではかなりの課題があります。また、「満足している」と「やや満足している」を足し合わせた割合が全ての戦略で 3 割未満に止まっておりまして、一方で「やや不満がある」と「不満がある」を合わせた割合は 2 割未満ということで、戦略毎に明確な違いがあまり見られないという結果になっております。観光まちづくりのマーケティング／マネジメント機能の強化がやや高い評価を得ておりますけれども、こちらは観光産業の担い手であるサービス業での意向が反映されたものと推測されます。冒頭から見ておりますとおり、人材確保が多くの上業者にとって喫緊の課題となっておりますが、戦略のうち地域経済を支える人材の育成・確保も 5 割超の上業者が「分からない」と回答しておりまして、他の戦略に対して高くなっております。戦略の内容や具体的な施策が十分に伝わっておらず、あるいは認識していても現行の施策が効果を上げていないと感じられているのかなというところですね。同様に、企業の生産性の向上や新事業の創出支援も大きな上業者に関係する内容になりますけれども、「分からない」は約 6 割を示しており、不満度も高くなっております。フードバレーはつかいちの創出、木のたびネットワークの形成に関する戦略は、食関連、木材関連産業を対象とするものですので、当該業種の以外の上業者については直接関係しないこともありまして、「分からない」の多さに繋がっているものと推察しております。また、オールはつかいちの産業支援も「分からない」が多くなっておりまして、戦略に紐づく DMO や DMC、地域商社といった専門的な概念が事業者側にとっては理解しづらさに繋がっている可能性があります。
- ・続いて 20 ページ目です。これは過去の戦略の重要度になります。全ての戦略において大多数の上業者が「重要である」または「やや重要である」と考えていますので、先ほどの満足度とは別に、各戦略の方向性自体は上業者の視点と一致しているかと思えます。なかでも、人材の育成・確保の重要度が高くなっておりまして、「重要」を選んだ上業者のみで 50%近くに上っております。現に人材不足に苦慮して、今後の人材確保を懸念している上業者の多さとほぼ一致しますので、本戦略が今後の産業振興における最優先事項の一つに位置づけられるものとなります。また、観光のマーケティング／マネジメント機能の強化の重要度は僅差で 2 位となっておりますけれども、満足度との一貫性を見ますと、上業者の意向との合致というのが見えますので、観光産業

が本市産業・経済のエコシステムのけん引役であるというところを証明しているかと思ひます。フードバレーはつかいちの創出と木のたびネットワークの形成につきましては、上位の戦略に比べると「重要」の構成比が顕著に低くなっております。こちらにも業種特化型のイメージが強いこともありますし、市のビジネスコミュニティ全体にとっては、普遍的に重要とは見なされず、暫定的な支持にとどまっている部分もあると考えております。同様にオールはつかいちの産業支援も、重要度が低くまた「重要ではない」割合も多いことから、こちらの施策の抽象性が重要度の低さに寄与している可能性があると考えてます。

- ・ 続きまして 21 ページ目です。先ほどの各戦略の満足度と重要度を点数化した上で、偏差値によりまずポートフォリオ分析を行った結果となります。現行の産業振興ビジョンの戦略を 4 象限ごとに分類したものです。まず A の重点改善領域は、最優先で改善すべき戦略で、重要度が高いにも関わらず満足度が低い領域ですけれど、地域経済を支える・成長をさせる人材の育成、企業の生産性の向上や新事業の創出支援、新たな都市活力の創出が分類されております。人材の育成確保につきましては、全戦略の中で最も重要度が高い一方、満足度が最も低い水準にあります。事業者にも求められていながら現状の取り組みに対する評価が低いというギャップが存在しますので、早急かつ抜本的な改善が求められるとなります。企業の生産性の向上や新事業の創出支援につきましても、重要度が平均を上回っているながら満足度が平均を下回っているといったところで、生産性向上は重要な経営課題になりますので、支援施策の効果ですとか、企業ニーズとの齟齬があることが示唆されていますので、実効性の高い施策が求められております。また、新たな都市活力の創出も、重要度が平均を上回る一方、満足度が平均をわずかに下回っている中で、ギャップを埋めるための改善策が求められるところです。
- ・ 次に B の現状維持領域、強みを維持・発展させるべき戦略です。重要度と満足度がともに高い領域となりまして、観光まちづくりのマーケティング／マネジメント機能の強化が分類されています。産業振興戦略の中で最も効果を示している領域とも言えますので、強みを伸ばすとともに他の戦略への波及効果や相互作用を高めることが有効であろうと考えられます。
- ・ 続いて C の改善検討領域、中長期的に改善検討をすべき戦略です。重要度・満足度ともに平均を下回っている領域ということになり、市内を縦断する食産業「フードバレーはつかいち」の創出が、こちらに分類されました。先ほど申しあげました通り、食産業を中心に据えた戦略となりますので、業種によっては関心が低く、また関連する事業者の期待にも応じられていない可能性があります。戦略の再設定や対象の明確化、あるいは他の戦略との統合などを検討する必要があると考えております。
- ・ 最後に D の再検討領域、取組のリソース配分や戦略の位置づけを再検討する必要があります。満足度は平均を上回ったものの重要度は平均を下回った領域です。こちらに分類されたのが、森林の育成から木の消費までを結ぶ「木のたびネットワーク」の形成です。こちらに関しては業種別の分析が必要になりますけれど、事業者の認識において、木材関連事業者とそれ以外に乖離がある可能性があります。この戦略の効果を検証しまして、対象を明確にした上で、取組におけるリソースの配分を最適化することが望ましいと思われまふ。もう一つ、オールはつかいちの産業支援になりますけれど、新たな産業振興体制の構築という事業者にとっては直接関係しない取組ですので、重要性が認識されにくいという部分もあるかと思ひます。戦略の具体化や事業者へのメリットの明確化などが求められます。
- ・ 最後に 25 ページです。事業者が考える産業支援施策の整備・充実に関する重要度です。端的に申しあげると市に対するニーズとなります。設備投資に対する補助金と生

成優遇・課税免除に対するニーズが最も高くなっており、「最も重要」と「重要」のいずれも上位を占めています。特に設備投資については「最も重要」の割合が2割超に達しておりますので、これに類する雇用に対する奨励金、運転資金の低利融資等も含めまして、事業基盤に直接かかわる資金面への支援がニーズの中核を占めているものと思われます。また、資金面の支援に関係する部分として、各種申請手続きの簡素化、支援制度の周知・PRも一定のニーズがあります。支援の充実だけでなく、その利用しやすさ、施策情報へのアクセスも重要と考える事業者が相当数存在することがわかります。DXの推進、海外での事業展開、製品・技術開発、知財管理・保護など、高度な経営課題に対する支援のニーズは総じて低くなっています。ただし、DXの推進を筆頭に、いずれも将来的には重要性が高まる可能性が高く、先進的な事業者に対する選択的な支援と並行して、他の事業者に対する啓発や情報提供を進めることで、市産業の中長期的な競争力低下を未然に防ぐ取組が求められるものと思われます。

- ・以上、市民の事業者アンケートの結果のご報告となります。今後、特性別のクロス集計やさらなる分析結果、お答えいただいた事業者の皆様、本日まで出席いただいている商工会等への皆様等へのヒアリングをいたしまして、内容を掘り下げて、事業者の課題、ニーズの具体化を図り、ビジョンの方向性を検討する土台としての資料の精度を高めていきたいと考えております。ありがとうございました。

上水流会長

- ・ありがとうございました。委員の皆様の方からご質問、ご意見、何でも結構ですので頂戴できればと思います。

地主委員

- ・今回のアンケート結果を見まして、特に10ページ、11ページでハローワークへの期待というのがすごく高いなと感じております。ハローワークというのは、お仕事を探されている求職者と人材を求めている求人者のマッチングを進めていくのが、大まかな業務になっていますので、期待に応えていかなという気持ちでおります。その中で、令和6年6月に廿日市市と広島労働局の間で雇用対策協定を結んでおります。アンケートデータの中にもありますけれど、人材不足、人手確保が大きな課題になっていますので、いろいろな取り組みを市役所と連携しながら進めております。
- ・特に人手不足というところで、新たなお仕事を探している求職者のほか、まだお仕事探しの活動を始めていない、まだ積極的には至っていない潜在的な求職者の方の活用が必要になってくるかと思います。例えば子育て世代の方、シニア世代の方、あるいは他の地域から転入されてきた方、こういった方の活用を図っていく必要があるかと思っています。
- ・子育て世代の活用に関して、来年度から市役所のご協力を得ながら大野地区での定期的な出張相談を行いたいと思っています。大野地域はいわゆる子育て世代の転入者が多い地域と聞いております。まるくる（廿日市市多世代活動交流センター「フジタスクエアまるくる大野」）という市の施設を利用して、ハローワークの利用方法を知ってもらったり、ハローワークが行う就職支援を行ったりしたいと思っています。また、シニア世代の方には、今年度、高齢者雇用に理解のある事業所を集めていただいて座談会セミナーというのを開きました。高齢者を活用するときのメリット、会社が行っている安全配慮といった意見交換会を行っております。他地域からの転入者に向けては、廿日市市は9年ですか10年ですか、連続して転入超過ですので、ハローワークの利用方法や、地元のハローワークを利用してくださいというチラシを1枚入れさ

せてもらっています。

- ・具体的な人材確保の取り組みとしまして、求人をお願いした会社に、ハローワークの職業紹介を担当する職員、求人部門を担当する職員が同行して、事業所訪問を行っています。その中で、どういう条件を希望される方が多いといった求職者の動向や今の窓口の状況といったことを直接お話しています。新たな人を雇うということもそうですが、今いる従業員さんに引き続いて勤めてもらう、離職を防ぐということも必要だと思います。実は窓口に来られるお仕事を探される方には、退職に至った理由を聞くようにしています。退職に至った理由が解消できれば、それは成功した転職となるかと思っています。退職理由は、勤務時間が合わなかった、合わない上司がいた、お休みがなかなか取れなかった、お給料が少なかったなど、いろいろな理由が含まれますが、本人たちは会社には全部まとめて一身上の都合による退職と書きます。それらの理由を会社にお話ししてみても職場定着を図るためのヒント、気づきにしてもらえればいいのではないかと思います、退職理由のお話をしたりもしています。このほか助成金を活用した雇用の促進、能力開発に利用できる助成制度の案内も行っています。
- ・また、ハローワークの会議室を利用して事業所の説明会も行っています。なるべく参加者が増えるときに、一社だけではなくて複数社を合同でやってみたりしています。ハローワークの会場での求人説明会ということで、面接会ではありませんので応募書類、履歴書も準備する必要がなく、参加する方は敷居が低いというところで、LINEやホームページ、SNSを使って開催の案内等を行っています。求人説明会は三部構成で、まずは会社からの説明を行っていただき、二つ目は参加された方の質問タイム、三つ目は個別の相談を行っています。あとは事業所を訪問した際の内容をもとに、会社が取り組んでいる魅力ある内容、魅力ある求人が活用できるようにいろいろなアドバイス等を行っています。
- ・今、人材確保を最重点項目として業務を行っていますので、人手不足の解消や地域の活性化といったものにつながると思います。職業安定所の行っている業務というところでご説明させていただきました。

上水流会長

- ・ありがとうございます。今、ハローワークで実施されている内容についてご説明をいただきましたので、そういう部分も含めて、他にいかがでしょうか。何か今回の説明を受けまして、思ったことがあればご意見をお願いします。

富川委員

- ・アンケート調査の速報版ということで、今後クロス集計とかしていただくということなので楽しみにしているところなのですが、膨大な資料ですごく参考になっています。21 ページに、例えば観光まちづくりのマーケティング／マネジメントが、満足度も重要度も高いということになっていますけれど、実際にはアンケートの対象がどういう業種なのかということもあると思います。宿泊とか飲食業と関係ない業者がほとんどのはずなのに、どうしてこの項目が高くなっているのか、というのがありました。また、業種とか地区別での分析をしていただければ嬉しいです。よろしくお願いします。

事務局：ランドブレイン株式会社

- ・当然ながら、業種別、地域性なども加味していければと思っていますし、重みづけの

ようなところもしなくてはならないかと思います。今回は解析の結果にはなっておりますけれど、ポートフォリオ分析に関しても業種別にみていくとかなり違ってきますので、その中間点のようなところをどこに置くのか、ということがあります。

富川委員

- ・ よろしくをお願いします。

上水流会長

- ・ ありがとうございます。観光まちづくりのマーケティング／マネジメント機能の強化が、21 ページの現状維持領域 B になっているというのは、現時点ではサービス事業者が多かったから、というのが一つの要因として考えられるということですね。

事務局：ランドブレイン株式会社

- ・ あるいは事業者にとって、廿日市市といえば観光、ということが意識としてあるということかも知れません。

上水流会長

- ・ いずれにしても、少し詳しい分析が出てくるということで、承知しました。委員の皆様の方から、こういう情報が知りたいというのがございましたら出していただきたいのですが、いかがでしょうか。
- ・ 今、若い人たちはハローワークよりもオンラインのサイトを見ながら仕事を探すということも出てきているというのもありまして、地主委員からご説明いただいた中で、若者向けには今どのように考えていらっしゃるのでしょうか。

地主委員

- ・ 若い方で仕事の申し込みに職業安定所を利用される方というのも一定数いらっしゃいます。失業給付の支払いを職業安定所が担っていますが、会社を辞めた若い人で失業給付をもらう方は必ず安定所で求職の申し込みをして、定期的なお仕事探しの活動をする必要があります。一方で、若者のハローワーク離れを、実は私たちの課題として持っています。お仕事を探すという方法はいろいろあるわけで、特にお仕事の申し込みをしていない方への情報発信というところで、LINE やホームページなど、SNS での情報発信にかなり力を入れてやっています。LINE の登録者も、今 1,700 件くらいと増えてきているところです。

上水流会長

- ・ ありがとうございました。

事務局：ランドブレイン株式会社

- ・ 先ほどご質問いただきましたけれども、今回、採用したい人材層と求人方法・採用ルートについて聞いておりますので、クロスすると、どういった人材を求めるときにどういったルートを使いたいのかという意向は出てくるかと思います。一般的に若年層が

欲しい方ほど、今はネットの方に求人を出していると言われておりますし、その辺の傾向は、次回ご報告できるのではないかと思います。

上水流会長

- ・ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

松本委員

- ・宮島では、特にタイミーやマイナビで、店舗の窓口で仕事をするアルバイトを募集しているようで、若い人に流行っているようです。

上水流会長

- ・若い人ですね。学生たちを見ているとそんな感じです。

富川委員

- ・今朝の NHK のニュースでやっていましたけれど、リゾートバイトが流行っていて、学生が行くのは分かるのですが、50 代、60 代が伸びているということで、何も若い人だけが SNS を活用するのではないというのもあります。大学の卒業生を見ましても就職活動するときに、やはり地元に残りたいという学生は一定数います。そういう学生は大体、職業安定所に行って職を探すけれども、地元の企業の募集が遅いので、みんなが決まっていく中で非常に焦って、早い就職先に決めてしまうということがあります。そういった課題もあり、地元の企業がもう少し SNS で情報を出しているといいと思います。

上水流会長

- ・他にいかがでしょうか。これを見られて思われたことがあれば、積極的にいただきたいと思うのですけれど。

林委員

- ・今日は説明がなかったのですが、検証シートの見方を教えていただきたいのですが、戦術の達成度が書かれているところと、KPI との関係がどのようになっているのかというところが分からなかったなので、お聞かせください。

事務局：産業振興課 産業企画係長

- ・KPI に対しての達成度として、KPI の目標値を達成していったら A としています。

林委員

- ・例えば KPI が×、△でも A になっていたり、○でも B になっていたり、当然 1 対 1 の対応ではなくて、いろいろな重みがあるのだと思うのですが、そのあたりがどのようになっているのか。

事務局：産業振興課 産業企画係長

- ・KPIの達成度は、目標値を達成していれば○です。後期ビジョンは5年前の令和2年度の数字が基準になっていまして、令和2年度から伸びていたら△、マイナスになったていたら×としております。戦術の達成度のところはKPIで測れない部分もありますので、全体を眺めた時に一番上の「多様な働き方の実現をできるかどうか」に対して、目標を大きく達成していたらSプラス、目標を達成したらS、近づいてきたらAというような判断で、定性的に判断しております。

林委員

- ・わかりました。そのようにしか進まないものもありますし、これまでの審議を受けて、KPIとして新たにこういう項目で評価していくといいのではないか、ということも出てくるような気もしたので、次にいろいろ議論していくときに検討していただきたいと思います。

事務局：産業振興課 産業企画係長

- ・KPIの設定がいろいろ難しいなと思っていまして、こればかりに頼れない部分もあるので、おっしゃった通り、少し検討していきたいと思います。

上水流会長

- ・ありがとうございます。目標値の出し方、見方といいますか、その辺は整理が必要かと思いました。
- ・他にいかがでしょうか。時間も限られてきていますので、私も意見を述べさせていただきます。やはり人的資本に対する投資をどうするのかという問題が大きく、地域経済を成長させる人材の育成という戦略の中で、実際に人的資本に対してどういう行動を取っていくのかという視点も、今後は必要なのかなと思っています。来年度から文部科学省でリスクリングに関するエコシステムを育成していこうということが始まります。経営者を対象に5千人を目標に人材育成の意味を実感してもらうものを作っていくということで、全国で25箇所採択されるということで、我々も申請に協力しています。リスクリング後に人材が自分たちの会社から離れてしまうのではないかという不安を持つ経営者も多く、その部分で積極的になれない三すくみ状態と言われている状況があります。そういうことも含めてどのように人材育成に関わっていけるのかという視点から、ビジョンの中で考えていく必要があるのかなということ。
- ・今お話が出たように県内の大学に進むと、割と県内で就職するということは多いと思います。私のゼミ生を見ているとほぼ県内から進学しているのですが、特に文系ということもあって昨年度は7名中6名、今年度は4名中4名が県内に残っています。そうすると、やはりダムの効果は大学にはあるのだろうと思っていまして、県内の大学にどのように進学してもらうかということも、実は人材を確保していく上では非常に重要な戦略ではないかと思っています。今、県内の大学は厳しい状況にあり、募集停止しているところも出てきていますので、大学をダム効果としてどう使えるかという視点も、これからは必要かと思ったところです。
- ・当然ながら廿日市市の課題は、皆さんご存じのように、宮島とそれ以外の部分の周遊をどのように作っていくかが非常に重要になっていて、今後廿日市市が全体的に発展する上で積極的に進めなければいけないところだと思います。重点的にどういうことができるのかということがありましたし、今回のお話の中でももう一つ出てきたのは、

各事業者はうまくされているかもしれないですが、いろいろな方をつなげていくような仕組みづくり、組織づくりができていないという報告が多かったように思います。そういう意味で、連携させるところにどうインセンティブを置きながらやれるのか、ということも、今後ビジョンの中で積極的に重点的にやっていかないといけない要素かと思ひながらご説明を聞いていたところです。

- ・他にご意見がなければ、最後に村上委員からご発言を頂戴できればありがたいと思っているのですが、いかがでしょうか。

村上委員

- ・今日はありがとうございました。貴重なご意見をいただきました。先ほど先生の言われるように廿日市市、もっと言えば広島県から人材が就職を機に出ていっています。4月には正式な発表がありますが、廿日市市は見込みとして10年連続の転入超過で、中国地方ではここだけとなります。やはり学生が就職を機に出ていく層は減少し、増えているのは30代の子育て世代です。先ほどハローワークからも転入者を対象にということで、まるくる（廿日市市多世代活動交流センター「フジタスクエアまるくる大野」）で相談会をしていただくとのこと。確かに廿日市市の中で、大野地域はずっと人口が増えている地域です。一方、佐伯とか吉和はどうしても人口が減っていつてい地域で、市内でも二極化をしていると私も感じています。観光も同じで、宮島はインバウンドで過去最高レベルに増えてきたものの、実は宿泊の部分だけとると宮浜温泉はインバウンドが少ない。やはり外国人も宮島口まで、宮島までは来るけれど、そこから西には行っていない。岩国もかなり苦しんでいると聞いています。先ほどの大学のダム機能は、これからぜひお願いしたいと思います。地元就職をしていただく、というのがまずはいいのかなと思います。今から作る産業振興ビジョンの中でも、どのように地元の大学と連携して何かを起こすことができるのか、ということが一つ大事になると思ひます。
- ・今日の議論やアンケートの中でも、脱炭素、ゼロカーボンの関係がなかったのも、そこは少し気にはなっています。今後、産業とゼロカーボン、脱炭素はセットの議論だと思ひますので、今度の新しいビジョンの中には見えていく必要があろうかと思ひます。
- ・新しい総合計画のタイトルには「ワクワク」という言葉が入る予定です。特に事業者をつなぐということで、観光のところは今後DMOを立ち上げていくということでありまますので、新たな枠組みを使って事業者をつなぎ、新しい価値を生み出すような仕組みで、今、いろいろ廿日市市で産業が動いているので、最終的にはこの産業振興ビジョンでワクワクするまち、ということが定着する、それが学生にも受け入れられ、転入にもつながるような形で、好循環を目指していきたいと思ひます。今日、皆様のご意見をいただきましたので、ぜひ活かしていきたいと思ひます。ありがとうございました。

上水流会長

- ・ありがとうございました。今、「ワクワク」というのは非常に大事だなと思ひておりますし、産業ですけれど、働く人たちの暮らしが幸せでないといけないと思ひます。人材確保という意味では、やはり働きやすい、暮らしやすいということが大事なので、本来はやはりそこまで視野に入れる必要があるのかなと思ひました。ぜひそういう形で、またよろしく願ひいたします。
- ・それでは皆様よろしいでしょうか。それでは、議題につきましては以上とさせていた

できます。全ての議題が終了いたしましたので、進行の方を事務局の方にお返しいたします。よろしくお願いします。

事務局：産業振興課長

- ・委員の皆様、長時間にわたりどうもありがとうございました。本日ご審議いただきました内容につきましては、事務局で整理させていただいた後に、会議録の概要等の配付によりお伺いさせていただきます。
- ・また今年度、廿日市市では産業構造調査を行っております。こちらの結果についても完成次第、委員の皆様の方に情報提供させていただきたいと思っております。
- ・それではこれをもちまして、第 17 回廿日市市産業振興審議会を閉会させていただきます。